



楷

第八十一号

岡山大学
図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No.81

2025
OCTOBER

<写真>

うしかに
海邊ニ生ス甲ノ
大サニ寸許可食

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学図書館所蔵池田家文庫より）

— 目 次 —

- 図書館についての雑考（岡山大学図書館長 鶴田健二） p.2
- 学術論文等の即時オープンアクセス義務化について（岡山大学図書館） p.5
- マスカット p.8
池田家文庫絵図展のお知らせ、東京大学史料編纂所との連携により池田家文庫岡山藩政史料の画像公開を開始 ほか
- 会議・研修・編集委員から p.16

図書館についての雑考

鶴田 健二

エフェソスはトルコ西部イズミル県に位置し、古代ローマ帝国時代に東地中海交易の中心地として栄えた都市で、2015年に世界遺産に登録されました。欧州はもとより、アジアからも多くの観光客を集めていますが、中でもひとときわ衆目を集めるのが、ケルスス図書館の遺構です(図1)。軍人・元老議員・執政官・法務官などを歴任し、当時の富裕層であったケルスス(Celsus)が自身の富を地域社会の利益のために寄贈し、紀元117~135年頃に完成したとのことです。この時代、図書館は公共スペースとしての役割を持っていたようで、1階が閲覧室で上階に蔵書が揃えられていたとのこと。当時は、識字率を上げることや文化的な楽しみを市民に与えることが特権階級に求められていたそうです。



図1:トルコ・イズミル県のエフェソス遺跡内にあるケルスス図書館遺構(2025年筆者撮影)

時代は進んで、中世ヨーロッパにおける図書館の役割は少し異なっていたようです。ウィーンのオーストリア国立図書館(図2)は740万点を収蔵する国立の図書館であり、中世オーストリアの王室に起源をもちます。中世ウィーンでは古典やキリスト教の教養を伝えるために、近世では学問の発展を支える機関として展開してきました。この頃のヨーロッパの図書館は総じて特権階級のみがアクセスできる場所であったようです。とはいえ、古代、中世のいずれの時代も図書館は「知の継承」の役割を担う重要な行政機関でした。工学、特に応用物理を専門とする筆者としては、中世から近代にかけて、ガリレオ・ガリレイ、アイザック・ニュートンから、アルベルト・アインシュタインやエルヴィン・シュレーディンガーといった現代物理学の礎を作った偉大な先人たちが、このような「知の継承」の仕組みの中で各々の役割を果たしてきたと考えます。特に、シュレーディンガーやボルツマンといったウィーン大学にゆかりの深い学者たちは、同じくウィーンで活躍したモーツァルト、ベートーベンのように、文化や教養の継承の流れの中で葛藤し、やがて近代科学の扉を開くことになったのではないのでしょうか。一方で、これらの知



図2:オーストリア国立図書館の中にあるバロック調のプルンクザール(2016年筆者撮影)

識・教養は、貴族等富裕層の経済的な支えによってごく限られたグループで継承・発展してきたともいえます。

一方、日本の図書館の歴史と役割について見てみると、古くは日本書紀を編纂した天武天皇のころの図書寮が行政資料を維持保管する役割をもった図書館とされています。この頃は、律令国家における行政機関の一つで、法律や政令等の資料の編纂や維持管理の役割を持っていたとことです。その後、一般向けに公開する図書館の役割を持ったのが、奈良時代末期の「芸亭（うんてい）」と言われています。こちらは、当時の有力貴族だった石上宅嗣（いそのかみ の やかつぐ）の自宅の書庫だったとのことですが、仏教・儒教の經典・書物を一般市民に公開し教養を高めることに貢献したとされ、こちらを日本最古の図書館と呼ぶこともあるそうです。

歴史学者ではない筆者が、上記4つの図書館像を（やや恣意的に）並べ比べ、さらに偏った見方であることを前置きしつつ述べるとすると、産業革命期からの急速な科学技術の発展のころに利用された特権階級の図書館から、時代はめぐって、現代、再びローマ時代の市民主義の図書館像が謳われ始めているように思えます。

文部科学省の科学技術・学術審議会の学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会が2010年に発表した「大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－」において、大学図書館の基本的機能として、大学生の学習と高等教育を支え、学術研究活動の基盤を維持整備することが記されています(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1306126.htm)。その後、2016年に国立大学図書館協会が打ち出した将来ビジョン“国立大学図書館協会ビジョン2020”(<https://www.janul.jp/ja/organization/vision2020>)において、基本理念の中に謳われているのが、

- ・大学における教育研究の進展
- ・社会における知の共有や創出の実現

への貢献です。ここでは、大学構成員の活動のみならず社会に開かれた図書館の役割も明記されました。2021年に更新された“ビジョン2025”(<https://www.janul.jp/ja/organization/vision2025>)においても、これら、「教育」「研究」「社会の知」への貢献という基本的な方針は引き継がれています。国立大学法人化後21年が経過して、国の高等教育という「知の継承」の役割から、何らかの形でその恩恵を市民が直接的に享受できるようにすることが図書館に求められ始めているわけです。

一方、海外の場合、例えばアメリカ図書館協会(American Library Association, ALA)が様々なポリシーや声明を公開し、各大学図書館がそれをお手本に基本理念を打ち立てています。ALAは、アメリカの市民運動の歴史を背景に、「知的自由」を守ろうとする声明・活動を積極的に展開している組織でもあります。アメリカ合衆国では、時の政権によっては検閲などの情報の締め付けを受けてきた歴史から、政治的支配に対抗する役割を持っているようで、そこには、「図書館が持つ情報は広く市民のもの」という基本的な考え方が醸成されているように思います。

もちろん、これらをもって現代の図書館が“ローマ時代の再来を迎えた”かのような単純な見方はできませんし、古代の“特権階級からの富・文化の分配”は、現代においては国民自身によって行われなければならない、同じ“知の継承”を脈々と続けるにあたっても、社会における意味がより複雑になっていると思います。すなわち、これまでの図書館における“知の継承”が、文献・資料といった“一次データ”を所蔵・閲覧可能なものとし、利用者がそのデータへの物理的な接触をする場所として継承されてきたのに対し、インターネットが人間社会のインフラになった現代では、これまでと同様なオンラインでの一次データ所蔵・閲覧と、図書館ネットワークによるディスカバ

リーサービス等のように、サイバー空間での検索・閲覧、そのどちらも利用者が活用できる場が図書館であり、利用のチャンネルが多様化・複雑化しています。

さらに、現代は人工知能(AI)との共存を模索し始める時代に差し掛かっています。2024年のノーベル物理学賞と化学賞、両方が AI に関わる基礎および波及に対して与えられました。特に化学賞の対象は、10年足らず前にニュースになった“アルファ碁”を起点として、様々なたんぱく質構造予測に使用できるアルゴリズムとその汎用化に貢献したことが受賞理由となったとのこと。ところが、そのアルゴリズムをある意味越えて、より大きい言語データ群からの強化学習で精度を上げる方法が開発され、今や ChatGPT に代表される、生成 AI が本格的に一般利用され始めています。この機能を生み出しているのが、インターネット空間でアクセスできるありとあらゆる言語データを自ら取得し、そこから練習問題と試験問題を自ら作って習熟度を高めていくアルゴリズムです。つまり、これまで人間が調べたい資料を探して図書館・書店巡りをしてデータを集め、それによって自らの理解を深めるといったプロセスをインターネット空間で機械がやっていることになります。従って、その賢くなった機械をいかに使いこなすか、を人間が学ばなければならない時代になりつつあるわけです。

少し横道にそれますが、地域の図書館数・蔵書数と高齢者の健康との間に相関があることを示すことが、慶応義塾大学と京都大学との共同研究結果として発表されました(<https://socepi.med.kyoto-u.ac.jp/blogs/8730>)。これまでも、個人の読書習慣などと認知症発症率との関係は多数報告があったそうですが、個々人の特性に関わらず何らかの関係があることが示されたのは初めてとのこと。この報告の結論によれば、人口当たりの蔵書数が1冊増えるごとに、高齢者の要介護リスクが4%も下がるということで、10冊増やせば3~4割も減らせるという結論です。論文では、因果関係が明らかではないという事は断っていますが、ウェルビーイングが最重要課題である日本においては特に注目 に値する調査結果だと思います。冒頭、古代ローマ時代に識字率向上が大きな社会課題であったことを述べましたが、それがもはや不要となった現代においては、上記のことは少なくとも地域の図書館が果たす役割の一つなのかもしれません。

では、学術的な知識の継承を担ってきた大学図書館の役割は？ 例えば、前述の生成 AI が人間の基本的思考や調査といった活動をサイバー空間で肩代わりしてしまう問題を考えるとき、いつも比較に出されるのが、かつての電卓やコンピュータの登場の際に抱いた人々（特に年長者たち）の不安です。つまり、頭や手で計算なくなり道具に頼るようになって、これからの人間は大丈夫か？ということ。しかし、その後の人間活動では、機械がしてくれる膨大な情報処理の上で新しい道具や生活様式等を生み出してきています。今の場合、“賢い機械”である AI を使いたおして、現存するデータの範疇にはない新しい概念を人間が生み出す方法を探求する科学が必要になるのではないのでしょうか。それをアシスト（共育）する（実ないしサイバー）空間となるのが、次の時代の図書館なのかもしれません。

（つるた・けんじ 岡山大学図書館長）

学術論文等の即時オープンアクセス 義務化について

岡山大学図書館

2024年2月16日に統合イノベーション戦略推進会議が、「学術論文等の即時オープンアクセスに向けた基本方針^{*1}」を策定しました。この方針により、2025年度から新たに公募を行う競争的研究費を受給する研究者は、その成果となる学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載が義務付けられます。2025年時点で義務化の対象となる競争的研究費は、表1のとおり4種類です。

助成団体	助成事業
日本学術振興会（JSPS）	科学研究費助成事業
科学技術振興機構（JST）	戦略的創造研究推進事業 （一部を除く）
日本医療研究開発機構（AMED）	戦略的創造研究推進事業
科学技術振興機構（JST）	創発的研究支援事業

表1：即時オープンアクセス義務化の対象となる競争的研究費

即時オープンアクセス義務化の対象となる学術論文とその根拠データは表2のとおりです。学術論文については「電子ジャーナルに掲載」された「査読済み研究論文」が対象となるので、冊子の雑誌のみに掲載された論文や、査読を行わない雑誌に掲載された論文は対象外となります。

学術論文	電子ジャーナルに掲載された査読済み研究論文
根拠データ	掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる Supplemental data 等の研究データ

表2：即時オープンアクセス義務化の対象となる研究成果

即時オープンアクセスの対応方法としては、表3のとおり大きく分けて2種類の方法があります。一つは「機関リポジトリ等の情報基盤への登録」で、『著者最終原稿と根拠データ』を機関リポジトリに登録することで即時オープンアクセスに対応します。著者最終原稿とは査読の際に著者が修正を行い、最終的に出版社に受理された原稿のことで、Accepted Author Manuscript と呼ばれます。これに対して、最終的に電子ジャーナルで公開しているファイルは、出版社版（Version of Record）と呼ばれます。岡山大学では図書館に著者最終原稿と根拠データを提出することで岡山大学学術成果リポジトリに登録され、費用をかけずにオープンアクセスを実現することが可能です。リポジトリ登録に関する詳細は岡山大学図書館の Web サイトでご確認ください^{*2}。

即時オープンアクセス義務化の対応方法	岡山大学のサービス
機関リポジトリ等の情報基盤への登録	岡山大学学術成果リポジトリへの登録
APC を支払い OA ジャーナルで公開	転換契約による論文掲載料支援
	インパクトの高い国際的な学術雑誌への APC 支援

表 3 : 即時オープンアクセス義務化の対応方法と岡山大学のサービス

もう一つは APC を支払いオープンアクセスジャーナルで学術論文を出版する方法で、岡山大学では、「転換契約による論文掲載料支援」と「インパクトの高い国際的な学術雑誌への APC 支援」の2種類の APC 支援を実施しています。

まず、「転換契約による論文掲載料支援」は、2025 年時点では、表 4 に掲載している 6 つの出版社の電子ジャーナルを対象としています。該当する電子ジャーナルにオープンアクセス論文として出版する場合、著者負担金として 5 万円を負担するだけで、出版社に APC を支払うことなくオープンアクセス出版することが可能となります。2025 年 4 月からは新たに Elsevier の電子ジャーナルも支援対象となりました。なお出版社により対象外となる電子ジャーナルもあります。対象となる電子ジャーナルや手続方法の詳細は図書館の Web サイトでご確認ください^{*3}。

出版社名	
Company of Biologists	Royal Society of Chemistry
Elsevier	SpringerNature
Oxford University Press	Wiley

表 4 : 転換契約による論文掲載料支援の対象出版社 (2025 年)

「インパクトの高い国際的な学術雑誌への APC 支援」は、2025 年 9 月までは Journal Citation Reports 等における評価指標が分野の上位 10% に該当する電子ジャーナルを対象にしていますが、2025 年 10 月から同指標が Q1 (上位 25%) に該当する電子ジャーナルを対象に変更します。APC の価格や申請者の身分に応じて著者負担金は 5 万円から 15 万円に設定し、APC の残額を支援しています。本支援は、転換契約に含まれない出版社やジャーナルを対象に APC 支援することを目的としています。対象となる電子ジャーナルや著者負担金および手続方法等の詳細は図書館の Web サイトをご確認ください^{*4}。

岡山大学図書館では、研究者が利用可能な即時オープンアクセス支援を簡易的に調べることができるツールを図書館 Web サイトで^{*5}提供しています。投稿する出版社や学術雑誌に応じて適切な支援制度を提案しますので、ぜひご利用ください。

オープンアクセスジャーナルに掲載することができない、出版社が即時に機関リポジトリ等の情報基盤に登録することを認めていない等、やむを得ない事由により即時オープンアクセスに対応できない場合は、関係府省及び資金配分機関が整備するシステムを通じて、実績報告の際に即時オープンアクセスの実施が困難な理由を報告することが求められています。ただし、困難な事由が解消

された場合は、速やかに機関リポジトリ等の情報基盤への掲載が求められます*6。即時オープンアクセスへの対応が困難な場合は、図書館にご相談ください。

研究成果をオープンアクセスにすることで、関連分野の研究者に加えて社会一般にも研究成果を広めることが可能となり、研究成果の利用促進や社会還元につながることを期待されます。岡山大学図書館では、即時オープンアクセス義務化に関する情報、オープンアクセス支援に関する情報に加えて、オープンアクセスの歴史や意義、注意点についても図書館 Web サイトにまとめていますので、合わせてご確認ください*7。

参照

1. 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（統合イノベーション戦略推進会議、2024 年 2 月 16 日） https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf
2. 著作の公開・登録手順（岡山大学学術成果リポジトリ）
https://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/page/for_author
3. 転換契約による論文掲載料支援（学内限定）
https://www.lib.okayama-u.ac.jp/campusonly_cms/transformative_agreement.html
4. インパクトの高い国際的な学術雑誌への APC 支援（学内限定）
https://www.lib.okayama-u.ac.jp/campusonly_cms/apc_q1.html
5. APC（論文掲載料）の割引等
<https://www.lib.okayama-u.ac.jp/support/apc.html>
6. 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策（関係府省申合せ、2024 年 10 月 8 日改正）
https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf
7. オープンアクセス支援 https://www.lib.okayama-u.ac.jp/support/support_oa.html

マスカット

池田家文庫絵図展のお知らせ

池田家文庫は、岡山大学図書館が所蔵する、江戸時代の備前岡山藩の藩政資料を中心とした約10万点にものぼるコレクションです。平成17年に岡山市と岡山大学の間で文化事業協力協定を結んで以降、「池田家文庫絵図展」として毎年テーマを変えて展覧会を開催しています。令和元年からは林原美術館も加わり、池田家ゆかりの資料が一堂に会する機会となっています。令和7年度は、「幕末維新期の池田家」と題し、同時期における岡山藩と池田家の動向に焦点を当て、岡山藩・岡山城下の変化を示す絵図、幕末政局における岡山藩主の活動や他藩との関係を示す文書・書状などを展示します。また、林原美術館の所蔵品から岡山藩主ゆかりの資料を2点ご紹介します。

1. 名 称：企画展 池田家文庫絵図展「幕末維新期の池田家」
2. 会 期：2025年10月4日（土）～11月3日（月・祝）（休館日を除く27日間）
 [休 館 日] 毎週月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日休館）
 [開館時間] 10:00～18:00（入場は17:30まで）
3. 会 場：岡山シティミュージアム 4階企画展示室
 〒700-0024 岡山市北区駅元町15-1（リットシティビル南棟4・5階）
4. 入館料：一般310円 / 65歳以上、大学生以下無料
 65歳以上の方は年齢を確認できるもの、学生の方は学生証を提示してください。
5. 主 催：岡山大学図書館、岡山シティミュージアム
 共 催：林原美術館
6. [オープニングトーク]
 日時：2025年10月4日（土）10:10～10:40
 会場：岡山シティミュージアム 4階企画展示室
 講師：岡山大学学術研究院社会文化科学学域 准教授 東野将伸氏
 [講演会] 予約申込制
 日時：2025年10月26日（日）14:00～16:00
 講師：行田市郷土博物館 学芸員 澤村怜薫氏
 演題：幕末の岡山藩主 池田茂政のアーカイブズ：移動する人と文書の軌跡

※講演会は10月10日10:00から岡山シティミュージアムにて電話先着順で予約を受付します。

<https://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/0000074947.html>

7. 主な展示資料：

武州忍城郭之図、長州軍艦庚申丸旗号絵図、忍城内略図、賊地風聞之俣、蝦夷閩境輿地全図、林原美術館より陣羽織（背面） 池田慶政所用など

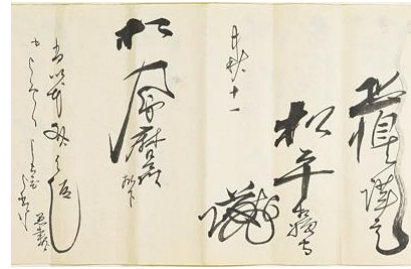


東京大学史料編纂所との連携により池田家文庫岡山藩政史料の画像公開を開始

岡山大学図書館は東京大学史料編纂所との連携により、当館所蔵「池田家文庫」の岡山藩政史料の画像約1万コマのウェブ公開を東京大学史料編纂所「Hi-CAT Plus」データベースより2025年3月に開始しました。2025年度中に4千コマの追加も予定しています。

公開サイト：東京大学史料編纂所 Hi-CAT Plus

<https://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w81/search>



池田家文庫 C8-370-3

「松平忠矩宛池田慶徳書状」末尾

「池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」実施報告

2025年6月15日（日）に岡山後楽園にて岡山大学図書館と教育学部の共催で「池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を開催し、18名（小学生9名、同行者9名）の方にご参加いただきました。

参加者は、教育学部学生による紙芝居で後楽園の歴史を勉強した後、岡山大学図書館所蔵の巨大絵図（複製）のうえを歩いたり、グループに分かれて縮小絵図（複製）を手に、自分たちで決めたルートで園内を回ったりして、絵図に描かれた昔の後楽園と現在の後楽園の違いを発見しました。最後にグループごとにそれぞれの発見を発表し、みんなで共有しました。

2006年度に始まった同ワークショップは、今年度で20周年を迎えました。



オープンキャンパス報告

中央図書館は、2025年8月7日（木）～10日（日）の4日間、鹿田分館は8月9日、10日の2日間、オープンキャンパスでにぎわいました。会場では、大学の授業で使用する教科書の展示などを行いました。ご来館いただいた高校生、保護者の方は、中央図書館で2,419名、鹿田分館で608名に達しました。

「電子化スタジオでんでん」が始動しました

2025 年 3 月下旬に、中央図書館本館 1 階入館ゲート正面で、「電子化スタジオでんでん」が始動しました。でんでんには、研究データ作成・公開を支援するための機器が設置され、本学に所属する教職員および大学院生、指導教員の許可を得た学部学生は、事前に機器と日時を指定し予約することをご利用いただけます。

2025 年 3 月に大型プリンター、8 月にブックスキャナー、マイクロフィルムスキャナーが利用可能となりました。当面の間は試行期間とし、利用状況やご要望等を参考に、よりよい運用の在り方を検討いたします。ぜひ、みなさまの研究にお役立てください。申請方法および利用方法の詳細については、図書館の Web サイト (https://www.lib.okayama-u.ac.jp/centrallib/digitization_studio.html) をご確認ください。

・大型プリンター

PDF ファイルから A0 や A1 判の大判ポスターを高精細に印刷できます。

用紙：A0 判厚ロコート紙（近日中に印刷用クロスを導入予定）

利用料金（試行期間中）：A0 判 1 枚 3,000 円、A1 判 1 枚 1,500 円

・ブックスキャナー

A3 ワイドサイズまでの資料を上向きで撮影可能で、資料を傷めずに電子化できます。

光学解像度：400dpi

対応サイズ：A3L ワイド（480×330mm）厚さ 100mm

利用料金（試行期間中）：無料

・マイクロフィルムスキャナー

ロールフィルムの自動スキャン機能を搭載し、様々なマイクロフィルムを効率よく電子化できます。

対応フィルム：16mm/35mm ロールフィルム、ポジネガフィルムマイクロフィッシュ等

スキャン解像度：2000dpi まで

利用料金（試行期間中）：無料

「電子化スタジオでんでん」設置のブックスキャナー、マイクロフィルムスキャナーで電子化可能な資料は、以下のいずれかに該当し、かつ著作権法ほか法令を侵害するおそれがないものです。

- ・ご自身が著作権を有しているもの
- ・著作権者の許諾が得られた著作物
- ・著作権保護期間が満了した著作物

※ 図書館資料は本サービスの対象外のため、電子化できません。

知好楽セミナー報告

「知好楽セミナー」とは、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとした中央図書館の独自企画です。各界から多彩な講師をお招きし、ご好評をいただいています。

・第34回「絶望から希望を生み出すスラムの学校・マゴソスクール〜キベラスラムと共に歩んだ30年〜」

日時：2025年5月21日（水）15:30～17:00

講師：早川千晶氏（マゴソスクール主宰）

場所：中央図書館 本館 1F 日本総研プラザ（ラーニングコモンズ）、Zoom によるオンライン配信

共催：日本国際学生協会（I.S.A.）岡山支部

参加者：会場21名、オンライン配信28名

早川さんがアフリカ・ケニアへたどりついた学生時代の旅のお話から始まり、ケニアという国の概要やキベラスラムの状況、貧困の中でも明るく生き抜くスラムの人々との出会い、マゴソスクールの設立とその後をお話いただきました。

また、講演後の質疑応答では「マゴソスクールではどのような授業を行っているのか」、「マゴソスクール設立後、キベラスラムはどのように変化したのか」など活発に質問が飛び交っていました。

参加者の方からは「大変貴重なお話を聞くことができてよかった」「スラムへのイメージが大きく変わり、ぜひ訪れてみたいと思った」「早川さんの行動力と言葉に心を打たれた」などの感想をいただきました。



・第35回「図書館ではじめる英語多読ワークショップ」

日時：2025年7月4日（金）15:30～17:00

講師：小川和子氏（NPO 多言語多読）

場所：中央図書館 本館 1F 日本総研プラザ（ラーニングコモンズ）

参加者：20名

「英語多読を始めて図書館を利用して継続する方法を体験しましょう」をテーマに、多読三原則のお話から始まり、Oxford Reading Tree など当館で所蔵している英語多読資料を実際に読むことで、英語に慣れるという読書体験を実感していただきました。

参加者の方からは「多読について理解が深まった」「簡単な内容から始めることが大切と知り英語学習のハードルが下がり希望が持てた」「説明が丁寧でわかりやすかった」などの感想をいただきました。



図書館館内展示報告

○中央図書館

- ・企画展「黒正巖先生と津島キャンパス」

展示期間：2025年3月21日（金）～8月5日（火）

展示場所：本館2F ムラタアカデミア（クスノキエリア）

- ・企画展「岡山アカデミア 岡山が輩出した知の偉人たち」

展示期間：2025年8月6日（水）～

展示場所：本館2F ムラタアカデミア（クスノキエリア）

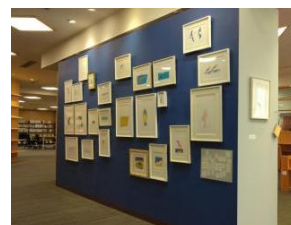


- ・岡山大学 5D Lab. Media Gallery 第4回企画展巡回展示

「絵描き 海太郎展」

展示期間：2025年4月11日（金）～10月31日（金）

展示場所：本館2F ムラタアカデミア（イチョウエリア）



- ・中央図書館ミニ展示報告

4月 新学期応援おすすめ本

5月 絶望から希望を生み出すスラムの学校 マゴソスクール

～キベラスラムと共に歩んだ30年～（第34回知好楽セミナー関連展示）

6月 レポート・論文の書き方

7-9月 図書館ではじめる英語多読ワークショップ（第35回知好楽セミナー関連展示）



○鹿田分館

・「岡大医学部の歴史と医学書」

岡山大学医学部は明治3年にその端を発し、以来150年以上の歴史があります。鹿田分館ではその間購入した蔵書を継承しており、蔵書印によりどの時代の蔵書かがわかります。岡大医学部の歴史を紹介し、同時にその証人として各時代の医学書を展示しました。(2024年展示分の再展示)

展示期間：2025年4月1日(火)～

展示場所：2階閲覧室



・「岡山医学専門学校とその時代」

2024年度に、鹿田分館が保管してきた「岡山医学専門学校」のアルバム写真をデジタル化しました。その写真を使用した岡山医専の紹介展示です。第三高等学校(京都大学)から独立し岡山の医学校に復帰した岡山医専は、同時期に設立された第六高等学校と並んで“教育県”岡山を代表する学校でした。

展示期間：2025年8月1日(金)～

展示場所：2階ロビー



○植物研分館

2025年5月10日(土)～5月23日(金)に、植物研分館は貴重資料等の展示『大原農研』の記録-意志を受け継ぐ-を実施しました。

今回の展示では図書館所蔵資料や研究所関係資料などから『大原農研』の軌跡を紹介しました。

また、5月10日の資源植物科学研究所一般公開では、クイズラリーを開催しており、植物研分館でも展示内容からクイズを出題し、お子さんから大人まで参加者のみなさまに楽しんでいただきました。



オリエンテーション・データベース講習会実施報告

○中央図書館

中央図書館では2025年4月～8月にオリエンテーションやラリー、ガイダンスを開催し、延べ732名の方にご参加いただきました。

2025年7月にはオンラインデータベース講習会を開催しました。リアルタイムでは延べ72名の方にご参加いただきました。開催後には岡山大学Moodleを介して記録動画を公開し、2025年9月10日までにオンデマンド配信で延べ75名の方にご覧いただきました。

オリエンテーション、ラリー

実施日	対象	参加人数
4月8日～4月28日	新任教員	16
4月1日～8月5日	新入生	535

ガイダンス

実施日	講習会名	参加人数
4月16、28日、5月2日	図書館・文献検索ガイダンス (教員の依頼により授業にて実施)	53
5月2日	レポートの書き方講習会 (教員の依頼により授業にて実施)	128

講習会

実施日	データベース	参加人数	視聴者数*
7月9日	Web of Science	37	42
7月9日	EndNote Online	35	33

*2025年9月10日までのオンデマンド配信の視聴者数

○鹿田分館

鹿田分館では2025年4月にオリエンテーションを開催し、323名の方にご参加いただきました。また、4月～7月にデータベース等の講習会を開催し、延べ120名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	対象	参加人数
4月2日、8日、22日	新入生 (医学部医学科・保健学科、歯学部)	323

講習会

実施日	講習会名	参加人数
4月23日	UpToDate	7
5月2日	個別講習会	2
5月14日	効率的な文献入手講習会	19
5月28日	系統的文献検索講習会	7
7月10日	データベース・文献検索講習会	75
7月11日	CINAHL 講習会	10

○植物研分館

植物研分館では2025年4月～5月にオリエンテーションを開催し、139名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	対象	参加人数
4月4日	環境生命自然科学研究科新入生	7
5月13日	農学部新入生	132

教員からの寄贈図書リスト

次の方から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

江尻寛正 [学術研究院教育学域 (教職実践)]

小中英語学習者用デジタル教科書を活用するために知っておきたいこと

——東洋館出版社, 2024.3

(375.893/E 41)

徳永誓子 [学術研究院社会文化科学学域 (文)]

十津川村史 歴史資料編 (古代中世・文化財) ——十津川村, 2025.3

(F216.5/To 73)

東野将伸 [学術研究院社会文化科学学域 (文)]

日本近世の金融と地域社会 (岡山大学文学部叢書 3) ——塙書房, 2025.3

(338.21/H 55)

<鹿田分館>

伊原木聰一郎 [学術研究院医歯薬学域 (歯)]

Extraction of the Mandibular Third Molar : An Evidence-based Guide——Springer, c2025

(497.3/EX)

会 議

◆学外

- | | |
|---|---|
| 2025.4.25 第 52 回国立大学図書館協会中国四国地区協会
総会（岡山大学） | 2025.6.24 岡山県大学図書館協議会令和 7 年度総会
～7.14 （メール会議） |
| 2025.5.16 第 73 回中国四国地区大学図書館協議会総会
～5.30 （メール会議） | 2025.6.19 第 72 回国立大学図書館協会総会
～6.20 （東北大学） |
| 2025.6.9 令和 7 年度岡山県図書館協会総会
（岡山県立図書館） | |

◆学内

- | | |
|--|---|
| 2025.6.16 令和 7 年度第 1 回岡山大学図書館運営委員会
（オンライン会議） | 2025.7.24 令和 7 年度第 1 回岡山大学図書館電子ジャー
ナル等経費検討委員会・電子ジャーナル等選
定ワーキンググループ合同会議
（オンライン会議） |
| 2025.6.16 令和 7 年度第 1 回岡山大学出版会運営委員会
（オンライン会議） | 2025.7.28 令和 7 年度第 1 回岡山大学図書館運営委員会
鹿田分館分科会 |
| 2025.7.22 令和 7 年度第 1 回岡山大学図書館運営委員会
資源植物科学研究所分館分科会 | 2025.8.1 令和 7 年度第 1 回岡山大学出版会編集委員会 |

研 修

- | | |
|---|--|
| ・ COAR Annual Conference 2025
参加者 石丸 綾華、高橋 辰弥（5.12～5.14） | ・ 令和 7 年度漢籍担当職員講習会（初級）
参加者 水内 勇太（9.8～9.12） |
| ・ 令和 7 年度岡山県大学図書館協議会研修会
参加者 高橋 辰弥（8.29） | ・ JUSTICE2025 年度版元提案説明会
参加者 久磨 由美子（9.10～9.11） |

編集委員から

今年の夏は耐え難い暑さでした。「楷」をお届けする頃には、少しは涼しくなっていることを願っています。さて、図書館では、語学担当教員に助言をいただき図書館 Web サイトの英語多読資料ページの充実を検討しているところです。完成しましたら、是非ご活用ください。

なお、この 10 月 1 日から、岡山大学図書館は「図書館・公共知共創機構」のもと、岡山大学の持つ「知」を広く社会に還元する役割を強化します。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。（Y.H.）

岡山大学図書館報「楷」 No. 81 2025 年 10 月 1 日

編集 広報ワーキング

岡山大学図書館発行

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1

ホームページ URL <https://www.lib.okayama-u.ac.jp>

